

国語学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本語構造論特論Ⅰ	「連語」から見た「カテゴリーカルミーニング」	2	齋藤 倫明	1学期	月	4	1
日本語構造論特論Ⅱ	文章・談話の構造論	2	甲田 直美	1学期	月	3	2
日本語構造論講読	近世言語論講読	2	齋藤 倫明	2学期	水	5	3
日本語構造論研究演習Ⅰ	方言調査法	2	小林 隆	1学期	火	2	4
日本語構造論研究演習Ⅱ	文章・談話の構造	2	甲田 直美	2学期	月	3	5
日本語変異論特論Ⅰ	方言学的日本語史研究	2	小林 隆	2学期	火	2	6
日本語変異論特論Ⅱ	日本語文法研究	2	大木 一夫	1学期	木	2	7
日本語変異論特論Ⅲ	日本語文法変化の研究	2	小柳 智一	集中(1学期)			8
日本語変異論講読	三宝絵を読む(下)	2	大木 一夫	2学期	木	2	9
日本語変異論研究演習Ⅰ	国語史・方言研究の諸問題	2	齋藤 倫明. 小林 隆. 大木 一夫. 甲田 直美	1学期	火	4	10
日本語変異論研究演習Ⅱ	現代語研究の諸問題	2	齋藤 倫明. 小林 隆. 大木 一夫. 甲田 直美	2学期	火	4	11
日本語変異論研究演習Ⅲ	国語史・方言研究の諸問題	2	齋藤 倫明. 小林 隆. 大木 一夫. 甲田 直美	1学期	火	5	12
日本語変異論研究演習Ⅳ	現代語研究の諸問題	2	齋藤 倫明. 小林 隆. 大木 一夫. 甲田 直美	2学期	火	5	13
日本語変異論研究演習Ⅴ	三宝絵を読む(上)	2	大木 一夫	1学期	月	2	14
課題研究 (国語学)		4	齋藤 倫明. 小林 隆. 大木 一夫. 甲田 直美	通年	木	1	

科目名：日本語構造論特論 I / Structure of Japanese(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 倫明（教授）

講義コード：LM11403， 科目ナンバリング：LLI-LIN616J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「連語」から見た「カテゴリーカルミーニング」

2. Course Title (授業題目)：

“Categorical Meaning” viewed from the “Word Combination”

3. 授業の目的と概要：

「語」と「文」とは、基本的な言語単位として一般に認められているが、両者の間にも立場によって様々な言語単位が設定されている。そこで、本講義では、(1)従来、そういった言語単位としてどのようなものが設定されているのか、(2)なぜ様々な言語単位が設定されるのか、(3)本来、どういった言語単位を設定するのが望ましいのか、といった点について考察することを通し、最終的には、そもそも言語単位とは何か、といった点を明らかにすることを目指す。今年度は、そのための一環として教科研の「連語」という単位を取り上げ、それと意味との関わりという観点から、教科研に特有の意味的概念「カテゴリーカルミーニング」について検討する。

4. 学習の到達目標：

1. 「言語単位」についての理解を深める。
2. 種々の具体的な文法論の言語単位とその考え方について理解する。
3. 「語」と「文」の間にある言語単位の考え方について理解する。
4. 「連語」という単位とその問題点について理解する。
5. 「カテゴリーカルミーニング」について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（前年度までの講義の流れ、今年度の予定等）
2. 「連語」について
3. 「連語」における問題点－意味との関わりから－
4. 「カテゴリーカルミーニング」とは何か
5. 「カテゴリーカルミーニング」についての先行研究（その一）
6. 「カテゴリーカルミーニング」についての先行研究（その二）
7. 先行研究の問題点（その一）
8. 先行研究の問題点（その二）
9. 「連語」と「カテゴリーカルミーニング」との関わり（その一）
10. 「連語」と「カテゴリーカルミーニング」との関わり（その二）
11. 「連語」と「カテゴリーカルミーニング」との関わり（その三）
12. 「カテゴリーカルミーニング」の新しい捉え方（その一）
13. 「カテゴリーカルミーニング」の新しい捉え方（その二）
14. 「カテゴリーカルミーニング」の新しい捉え方（その三）
15. まとめと今後の課題

6. 成績評価方法：

レポート [80%] ・ 出席 [10%] ・ その他 [10%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書は講義中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回コメントペーパーを配布するので、前回自分が提出したコメントペーパーの内容について自分なりにある程度下調べをして講義に臨むようにする。

9. その他：

特になし。

科目名：日本語構造論特論Ⅱ／ Structure of Japanese(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：甲田 直美（准教授）

講義コード：LM11303， 科目ナンバリング：LLI-LIN617J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目)：

Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：

文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

4. 学習の到達目標：

(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～
2. 音声，イントネーション
3. ターン交替，TCU
4. 分析データの記述法
5. 音声転記の方法
6. コーパス，言語のバリエーション
7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity
8. 会話に頻繁に見られる現象1
9. 会話に頻繁に見られる現象2
10. 会話に頻繁に見られる現象3
11. 会話に頻繁に見られる現象4
12. 研究テーマの着眼点，レポートの書き方
13. 研究の進め方1
14. 研究の進め方2
15. レポートの書き方

6. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。
音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。
会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。
論文を読んで論点を提出する。

9. その他：

科目名：日本語構造論講読／ Structure of Japanese (Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 倫明（教授）

講義コード：LM23505， 科目ナンバリング：LLI-LIN618J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世言語論講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading of the Modern Japanese Linguistic Works

3. 授業の目的と概要：

近世言語論の大きな流れを形成した本居宣長とその学統を継ぐ一派（「八衢派」）の言語論を講読する。今年度は、そのうちの東条義門（1786～1843）の『山口栞』（1836 年刊）を読む。本書は、本居宣長の息子春庭の『詞の八衢』『詞の通路』の考えを継承し、日本語の用言についてまとめて論じたものである。本講義では、活字本と東北大学図書館蔵本の版本とを対比させつつ、一字一句精確に読み解くとともに、八衢派の流れを汲む東条義門の所説を理解することを目指す。

4. 学習の到達目標：

1. テキストに書かれていることを精確に理解する。
2. 日本語学史上における近世言語論の特質を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（講義の進め方、東条義門と「山口栞」についての概説等）。
2. 「山口栞」の講読（その一）。
3. 「山口栞」の講読（その二）。
4. 「山口栞」の講読（その三）。
5. 「山口栞」の講読（その四）。
6. 「山口栞」の講読（その五）。
7. 「山口栞」の講読（その六）。
8. 「山口栞」の講読（その七）。
9. 「山口栞」の講読（その八）。
10. 「山口栞」の講読（その九）。
11. 「山口栞」の講読（その十）。
12. 「山口栞」の講読（その十一）。
13. 「山口栞」の講読（その十二）。
14. 「山口栞」の講読（その十三）。
14. 「山口栞」講読の総括。

6. 成績評価方法：

レポート（60%）、授業への取り組み方（20%）、出席（20%）。

7. 教科書および参考書：

特に使用しない。

必要があれば適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

講義に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。

9. その他：

特になし。

科目名：日本語構造論研究演習 I / Structure of Japanese (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：小林 隆（教授）

講義コード：LM12204， 科目ナンバリング：LLI-LIN619J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

方言調査法

2. Course Title (授業題目)：

Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要：

方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

4. 学習の到達目標：

方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明
2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業
3. 方言的特徴の調べ方についての解説（1）
4. 方言的特徴の調べ方についての解説（2）
5. テーマ等設定に向けての作業（1）
6. テーマ等設定に向けての作業（2）
7. 中間報告（1）
8. 中間報告（2）
9. 調査票の作り方についての解説
10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法
11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方
12. 現地調査と結果の分析（1）
13. 現地調査と結果の分析（2）
14. 最終報告（1）
15. 最終報告（2）、授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50%）・出席（50%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

- ①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。
- ②現地調査に参加し、結果の分析を行う。

9. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：日本語構造論研究演習Ⅱ／ Structure of Japanese(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：甲田 直美（准教授）

講義コード：LM21303， 科目ナンバリング：LLI-LIN620J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

文章・談話の構造

2. Course Title (授業題目)：

Discourse and Conversation Analysis

3. 授業の目的と概要：

これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。

- I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、
- II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、
- III. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

4. 学習の到達目標：

- (1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。
- (2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. データの種類とその扱い：分析の観点
2. ジャンル、レジスター、スタイルと言語差
3. テキストにおけるジャンル差
4. コーパス研究 1
5. コーパス研究 2
6. 文章における諸現象 1
7. 文章における諸現象 2
8. 会話における諸現象 1
9. 会話における諸現象 1
10. ドラマの構造分析
11. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
12. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
13. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
14. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方
15. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・出席 [10%]・発表内容 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。論文を読んで、論点を把握し、批判的検討を行う。

9. その他：

受講希望者は前期に開講する「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。

科目名：日本語変異論特論 I / Variation of Japanese (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：小林 隆（教授）

講義コード：LM22205， 科目ナンバリング：LLI-LIN621J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

方言学的日本語史研究

2. Course Title (授業題目)：

study of the dialectological Japanese history

3. 授業の目的と概要：

これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るといった問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの中で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言葉の運用面を取り上げることにし、その地域差を明らかにするとともに、社会的な視点も交えて歴史的考察へと進んでいきたい。

4. 学習の到達目標：

方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 1. 授業への導入
2. 2. 目的・方法・資料
3. 3. オノマトペ（1）
4. 3. オノマトペ（2）
5. 4. 感動詞（1）
6. 4. 感動詞（2）
7. 5. 挨拶表現（1）
8. 5. 挨拶表現（2）
9. 6. 言語行動（1）
10. 6. 言語行動（2）
11. 7. 談話展開（1）
12. 7. 談話展開（2）
13. 8. 言語的発想法（1）
14. 8. 言語的発想法（2）
15. 9. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（80%）・出席（20%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』（岩波新書）のほか、授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

言葉の運用面の地域差について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

9. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：日本語変異論特論Ⅱ／Variation of Japanese(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：大木 一夫（教授）

講義コード：LM14207， 科目ナンバリング：LLI-LIN622J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語文法研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：

現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、時間表現の文法。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。
- (2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 文法論の立場と方法
3. 文法論的分析(1)
4. 文法論的分析(2)
5. 文法論的分析(3)
6. 文法論的分析(4)
7. 文法論的分析(5)
8. 文法論的分析(6)
9. 文法論的分析(7)
10. 文法論的分析(8)
11. 文法論的分析(9)
12. 文法論的分析(10)
13. 文法論的分析(11)
14. 文法論的分析(12)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。
- (2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

9. その他：

科目名：日本語変異論特論Ⅲ／ Variation of Japanese(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：小柳 智一（非常勤講師）

講義コード：LM98813、科目ナンバリング：LLI-LIN623J、使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語文法変化の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of the grammatical change in Japanese

3. 授業の目的と概要：

日本語文法史の事例を整理することを通して、文法変化についての見方を深め、日本語研究の方法や態度を考えることを目的とする。取り上げるのは日本語文法史の個別的な事例だが、それらを個々に扱うのではなく、一般的なレベルで俯瞰し、文法変化にどのような傾向があるか、なぜそのような傾向があるのか、という問題を考える。近年の文法変化研究で言われている用語および概念を検討しながら、現にある事例を無理せず普通に見ることによって、どのような言語の景色が披けるかを試みる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語文法史に関する前提や基礎知識が理解できるようになる。
- (2) 文法変化についての多様な捉え方が理解できるようになる。
- (3) 立論のための整合的かつ体系的な思考法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 言語の歴史と記述
3. 言語変化の段階と要因
4. 言語変化の傾向と動向
5. 機能語生産
6. 文法的意味の源泉と変化
7. 文法変化の方向
8. 文法変化の方向と統語的条件
9. 「主観」という用語
10. 文法変化と多義化
11. 対人化と推意
12. 多義化と意味の連帯
13. 文法制度化
14. 消失の言語変化
15. まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

教科書として、小柳智一『文法変化の研究』（くろしお出版）を使用する。

参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) 教科書を読み、その内容の要点を把握して参加する。
- (2) 講義内の説明についての疑問点を整理し、解決に努める。

9. その他：

科目名：日本語変異論講読／ Variation of Japanese (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：大木 一夫（教授）

講義コード：LM24206， 科目ナンバリング：LLI-LIN624J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

三宝絵を読む（下）

2. Course Title (授業題目)：

Linguistic study of “Sampōe” (Illustrations of the Three Jewels)

3. 授業の目的と概要：

平安時代成立の仏教説話集「三宝絵」を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての「三宝絵」がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものなのかを、さまざまな視点から検討する。また、そのような検討をふまえ、「三宝絵」を資料の一端として、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 日本語史研究の方法(1)
3. 日本語史研究の方法(2)
4. 日本語史研究の方法(3)
5. 担当範囲についての発表(1)
6. 担当範囲についての発表(2)
7. 担当範囲についての発表(3)
8. 担当範囲についての発表(4)
9. 担当範囲についての発表(5)
10. 担当範囲についての発表(6)
11. 担当範囲についての発表(7)
12. 担当範囲についての発表(8)
13. 担当範囲についての発表(9)
14. 担当範囲についての発表(10)
15. 担当範囲についての発表(11)・まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配付する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
- (2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

9. その他：

前期の「日本語変異論研究演習 V」（三宝絵を読む（上））から連続して履修すること。

科目名：日本語変異論研究演習 I / Variation of Japanese (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 倫明、小林 隆、大木 一夫、甲田 直美（教授 他）

講義コード：LM12405， 科目ナンバリング：LLI-LIN625J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

国語史・方言研究の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Research and Publication on the Japanese Language History and Dialect

3. 授業の目的と概要：

国語史・方言研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、国語史・方言研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. 学習の到達目標：

自己の研究テーマを深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回目 ガイダンス

第 2 回目 第 1 回目担当者の研究発表

第 3 回目 第 2 回目担当者の研究発表

第 4 回目 第 3 回目担当者の研究発表

第 5 回目 第 4 回目担当者の研究発表

第 6 回目 第 5 回目担当者の研究発表

第 7 回目 第 6 回目担当者の研究発表

第 8 回目 第 7 回目担当者の研究発表

第 9 回目 第 8 回目担当者の研究発表

第 10 回目 第 9 回目担当者の研究発表

第 11 回目 第 10 回目担当者の研究発表

第 12 回目 第 11 回目担当者の研究発表

第 13 回目 第 12 回目担当者の研究発表

第 14 回目 第 13 回目担当者の研究発表

第 15 回目 まとめ

6. 成績評価方法：

レポート[90%] ・ 出席[10%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

9. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅱ／ Variation of Japanese(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 倫明、小林 隆、大木 一夫、甲田 直美（教授 他）

講義コード：LM22404， 科目ナンバリング：LLI-LIN626J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代語研究の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Research and Publication on the Japanese Contemporary Language

3. 授業の目的と概要：

現代日本語研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. 学習の到達目標：

自己の研究テーマを深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回目 ガイダンス

第 2 回目 第 1 回目担当者の研究発表

第 3 回目 第 2 回目担当者の研究発表

第 4 回目 第 3 回目担当者の研究発表

第 5 回目 第 4 回目担当者の研究発表

第 6 回目 第 5 回目担当者の研究発表

第 7 回目 第 6 回目担当者の研究発表

第 8 回目 第 7 回目担当者の研究発表

第 9 回目 第 8 回目担当者の研究発表

第 10 回目 第 9 回目担当者の研究発表

第 11 回目 第 10 回目担当者の研究発表

第 12 回目 第 11 回目担当者の研究発表

第 13 回目 第 12 回目担当者の研究発表

第 14 回目 第 13 回目担当者の研究発表

第 15 回目 まとめ

6. 成績評価方法：

レポート[90%] ・ 出席[10%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

9. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅲ／ Variation of Japanese(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 倫明、小林 隆、大木 一夫、甲田 直美（教授 他）

講義コード：LM12502， 科目ナンバリング：LLI-LIN627J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

国語史・方言研究の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Research and Publication on the Japanese Language History and Dialect

3. 授業の目的と概要：

国語史・方言研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、国語史・方言研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. 学習の到達目標：

自己の研究テーマを深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回目 ガイダンス
第2回目 第1回目担当者の研究発表
第3回目 第2回目担当者の研究発表
第4回目 第3回目担当者の研究発表
第5回目 第4回目担当者の研究発表
第6回目 第5回目担当者の研究発表
第7回目 第6回目担当者の研究発表
第8回目 第7回目担当者の研究発表
第9回目 第8回目担当者の研究発表
第10回目 第9回目担当者の研究発表
第11回目 第10回目担当者の研究発表
第12回目 第11回目担当者の研究発表
第13回目 第12回目担当者の研究発表
第14回目 第13回目担当者の研究発表
第15回目 まとめ

6. 成績評価方法：

レポート[90%] ・ 出席[10%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

9. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅳ／ Variation of Japanese(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 倫明、小林 隆、大木 一夫、甲田 直美（教授 他）

講義コード：LM22502， 科目ナンバリング：LLI-LIN628J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代語研究の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Research and Publication on the Japanese Contemporary Language

3. 授業の目的と概要：

現代日本語研究について種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を認識しながら、自己のテーマと研究方法を定める。具体的には、自己のテーマに関する先行研究の調査、批判、および資料の精査に充分基づいた新たな方法論の確立、研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. 学習の到達目標：

自己の研究テーマを深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回目 ガイダンス
- 第2回目 第1回目担当者の研究発表
- 第3回目 第2回目担当者の研究発表
- 第4回目 第3回目担当者の研究発表
- 第5回目 第4回目担当者の研究発表
- 第6回目 第5回目担当者の研究発表
- 第7回目 第6回目担当者の研究発表
- 第8回目 第7回目担当者の研究発表
- 第9回目 第8回目担当者の研究発表
- 第10回目 第9回目担当者の研究発表
- 第11回目 第10回目担当者の研究発表
- 第12回目 第11回目担当者の研究発表
- 第13回目 第12回目担当者の研究発表
- 第14回目 第13回目担当者の研究発表
- 第15回目 まとめ

6. 成績評価方法：

レポート[90%] ・ 出席[10%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

9. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。

科目名：日本語変異論研究演習V／Variation of Japanese(Advanced Seminar)V

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：大木 一夫（教授）

講義コード：LM11203， 科目ナンバリング：LLI-LIN629J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

三宝絵を読む（上）

2. Course Title (授業題目)：

Linguistic study of “Sampōe” (Illustrations of the Three Jewels)

3. 授業の目的と概要：

平安時代成立の仏教説話集「三宝絵」を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての「三宝絵」がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものなのかを、さまざまな視点から検討する。また、そのような検討をふまえ、「三宝絵」を資料の一端として、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 「三宝絵」解題
3. 古辞書概説(1)
4. 古辞書概説(2)
5. 発表の方法
6. 担当範囲についての発表(1)
7. 担当範囲についての発表(2)
8. 担当範囲についての発表(3)
9. 担当範囲についての発表(4)
10. 担当範囲についての発表(5)
11. 担当範囲についての発表(6)
12. 担当範囲についての発表(7)
13. 担当範囲についての発表(8)
14. 担当範囲についての発表(9)
15. 担当範囲についての発表(10)・まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配付する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
- (2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

9. その他：

後期の「日本語変異論講読」（三宝絵を読む（下））も連続して履修すること。